



認知症家族教室



今回の家族教室は、ご家族同士の交流会「分かち合いの会」として、入院患者のご家族と外来患者のご家族合わせて11名の方にご参加いただきました。

はじめに、認知症サポート医の洪DRから、当院を受診された場合、画像検査や、心理検査、症状の確認とともに、認知症状を引き起こす他の病気の可能性なども含めて総合的に判断し、診断していること、また、入院された場合には、さまざまな検査や服薬調整とともに、日常生活能力の評価や、作業療法など多職種が退院に向けた関わりを行っていることをお伝えさせていただきました。

次に、山村臨床心理士から本日の「分かち合いの会」の趣旨として、「介護をされるご家族は、ストレスを感じても一人で抱え込んだり、自分を責めたりしてしまうことがあります。今日のお話し合いの中で自分だけではないということがわかり、少しでも気持ちが楽になっていただければ・・・」と伝えられました。

意見交換では、何度かご参加いただいている方もおられ、和やかな雰囲気が進められました。

そこでは、多くのご家族が、在宅介護で大変な思いをされた経験を持ちながらも『もう一度自宅に連れて帰ってあげたい』という思いと、現実的に『帰って本当にやっていけるのか』という不安な思いとの間で葛藤されていることがわかりました。

この不安を軽減するためには、病院と在宅のスタッフが協働でご本人、ご家族への継続した関わりを行うとともに、何かあればすぐに対応してもらえるという安心感の提供が必要だと感じました。今後も、ご本人だけでなくご家族にも、このような家族教室を通して支援を行っていきたいと思います。